

里山活性化

プロジェクト講演会

オオルリシジミの舞う 信州を未来へ



絵本「ちようちよのりりい」
読み聞かせ&原画展も
同時開催!

2012年

4月14日(土) 開演 13:00
(開場 12:30)

松代文化ホール

第1部 13:00 ~ 15:00

特別講演 矢後勝也氏 「絶滅に瀕しているチョウたち」
基調講演 江田慧子氏 「りりいからのメッセージ」
絵本「ちようちよのりりい」読み聞かせ 朗読 三島さやかさん (SBCニュースキャスター)

第2部 15:10 ~ 16:30

パネルディスカッション「オオルリシジミと里山活性化」
コーディネーター/中村寛志氏
パネリスト/矢後勝也氏 江田慧子氏 那須野雅好氏
清水敏道氏 井田秀行氏

入場無料

主催：「オオルリシジミの舞う信州を未来へ」実行委員会

後援：長野県 安曇野市 東御市 飯山市 信州大学農学部 信州大学山岳科学総合研究所 日本チョウ類保全協会 信濃毎日新聞社

※この講演会は平成23年度タカラ・ハーモニストファンドの助成を受けています。

お問い合わせ

「オオルリシジミの舞う信州を未来へ」実行委員会

(オフィスエム内) TEL026-237-8100 E-mail info@o-emu.net

国内では九州の阿蘇地方と長野県の3地域（安曇野市、東御市、飯山市）でのみ棲息が確認されている絶滅危惧種“オオルリシジミ”の存在を広く知ってもらい、これからの里山のあり方を考えます。

趣意文

オオルリシジミの舞う信州を未来へ実行委員会 代表 中村 寛志

オオルリシジミは、信州の身近な里山で人々と共存してきたチョウです。本講演会は、「生物多様性戦略ながの県戦略」の「里山活性化プロジェクト」の一環として、研究者による絶滅に瀕しているチョウからのメッセージと、保護団体からの現況報告を聴き、希少野生動植物の保護を軸とした「里山活性化」の推進について、みなさんと議論を深めることを目的で企画しました。



信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター教授。アルプスや里山における生物多様性の保全と絶滅危惧種の保護、チョウ類群集の構造解析による環境評価が専門。

プログラム

第1部
(13時5分)

特別講演 ■ 矢後 勝也氏

「絶滅に瀕しているチョウたち」



東京大学総合研究博物館助教。日本昆虫学会自然保護委員、日本鱗翅学会評議員および自然保護委員、日本蝶類学会学術委員長、日本チョウ類保全協会幹事。昆虫、特にチョウ類の系統分類学や進化系統学、保全生物学を主軸としながら、あらゆる生物学分野に取り組む。

基調講演 ■ 江田 慧子氏

「りりいからのメッセージ」



信州大学大学院総合工学系研究科博士課程。日本学術振興会特別研究員。著書に科学絵本「ちょうちょのりりい オオルリシジミのおはなし」(オフィスエム)がある。2011年にオオルリシジミの研究成果が認められ、日本環境動物昆虫学会奨励賞を最年少で受賞した。

「ちょうちょのりりい」読み聞かせ

朗読 ■ 三島さやかさん (SBC ニュースキャスター)

第2部
(15時10分)

■ パネルディスカッション ■

「オオルリシジミと里山活性化」

コーディネーター/中村 寛志氏

パネリスト/矢後 勝也氏

江田 慧子氏

那須野 雅好氏

安曇野市「安曇野オオルリシジミ保護対策会議」

清水 敏道氏

東御市「北御牧のオオルリシジミを守る会」

井田 秀行氏

飯山市「北信濃の里山を保全活用する会」

4月14日(土)
開演 13:00 (開場 12:30)
松代文化ホール
〒381-1231 長野市松代町松代 515-2
TEL 026-278-4373

上信越自動車道 長野ICより約5分。
駐車場は松代支所と共有になり、台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。なお、長野市方面からバスで越越しの方は、長野駅善光寺口3番のりば松代線(古戦場経由松代行、松代駅下車徒歩5分)をご利用ください。

講演者の関連著書



『ちょうちょのりりい』

作 江田慧子

絵 さくらい史門

(A5判 32ページ)

まぼろしのチョウ、オオルリシジミ“りりい”のお話。大きな営みの中で、繰り返し紡がれる小さな命の尊さを伝える、チョウの研究者が子どもたちのために作った科学絵本。



『蝶からのメッセージ 地球環境を見つめよう』

中村寛志・江田慧子 編

(A5判 148ページ)

チョウを知ること、環境の変化がわかる!

チョウの種類と個体数をみれば、その環境を診断することができる。日本でもっともチョウの種類数が多い長野県からチョウの研究者11人が伝えるチョウからのメッセージ。



『山に登った虫たち 山岳昆虫の多様性と保全』

中村寛志/信州大学山岳科学総合研究所/中部山岳地域環境変動研究機構 編

(A5判 122ページ)

高地生態系の異変が私たちに伝えるメッセージとは?

近年の登山ブームや地球温暖化によって高地の生態系の異変や破壊が危惧される中部山岳エリア。山岳昆虫の適応と進化などの研究発表と、その保全のあり方を提言。